



森林の有する多面的な機能等について県民の理解を高め、森林環境を保全する取組への参画に繋げるため、山の学習支援事業の補助団体であり、こうち山の日ボランティアネットワーク事務局も担っている高知県森と緑の会に専任職員を1名配置し、①森林環境学習のコーディネータや②森林保全ボランティア活動のネットワーク強化等を図るための活動を委託し、森林整備等に関わる体験の機会を創出する。

令和3年度に、ハンドブック(R2作成)を活用した山の学習支援事業の活用校の増加に向けた取組や、森林保全ボランティア活動の活性化に向けたボランティア団体の活動実態調査等に係る業務(※)を同会に委託し、山の学習支援事業では、令和4年度の活用校が18校増。ボランティア団体の課題(活動の低下の原因や横のつながり、支援の必要性)を確認することができました。

令和5年度から、山の学習支援事業の活用校のさらなる増加を図るとともに、森林保全ボランティア団体の相談支援、ネットワーク強化、活性化を図っていく。

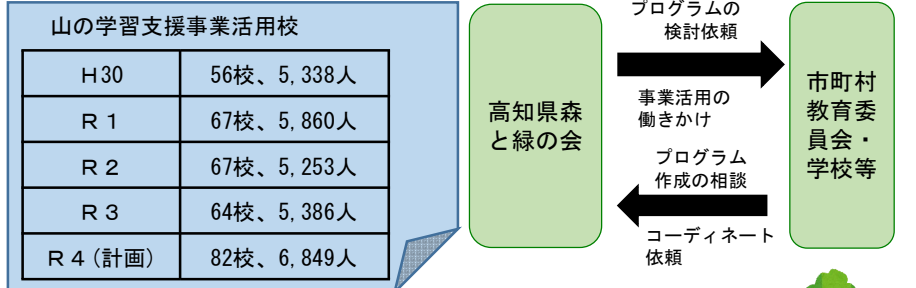
事業費：専任職員1名人件費、総括責任者人件費、旅費、交流会場費、ボランティア団体活動支援費、ボランティア団体保護具購入費、林業事務所ボランティア活動保険料 等

①山の学習支援事業活用の支援

成果等

- 令和3年度、ハンドブックを活用し、学校や市町村教育委員会に働きかけることにより、山の学習支援事業の活用校の増につながった。
- 山の学習支援事業は、R5より保育園・幼稚園も対象となるため、従来の小中学校に加え、保育園や幼稚園等にも働きかけを行い、活用校の増を図る。

各市町村教育委員会や事業未実施校を訪問し、ハンドブック等のPR素材を活用した学習プログラムの検討を要請するとともに、学習プログラムの検討・作成や指導者とのマッチング、各校からの相談に応じる相談業務を行う。山の学習支援事業の活用校の増を目指す。



R5～対象となる学校数のイメージ(他に児童クラブなどがある。)

小学校	185校、分校1
中学校	101校、分校1
義務教育学校	4校
特別支援学校	10校、分校7
保育園、幼稚園等	311園



②森林保全ボランティア団体の活性化、ネットワーク強化支援

- 山の学習支援事業の活用校の増加に伴う活動の増加を支えるためには、ボランティア団体活性化や指導者の確保等が不可欠
- 間伐や植林などの森林環境保全の体験を行うには、地域でボランティア団体等を育成し、県民参加の機会を創出することが必要

課題

- 森林保全ボランティア団体・参加者の固定化・活動の停滞
- 既存のボランティア団体の活動支援と新たな参加者の取り込みが必要

県全体のボランティア活動を活性化するため、現在のボランティアネットワーク参加団体に加え、森林・山村多面的機能発揮対策事業の活用団体も含めたネットワーク化を進めることを目指し、ボランティア団体を訪問し、加盟団体を増やす。課題解決の相談対応を行い、関係を構築するとともに、県民参加機会(イベント等)の創出を働きかける。

森林保全ボランティア活動回数

H30	24回、275人
R1	28回、396人
R2	46回、651人
R3	40回、595人
R4(計画)	43回、470人

※平成23年度 33団体あったボランティア団体が現在活動しているのは10団体程度

